

新しい時代の 自立した女性教育をICTが支える

ー 筑紫女学園高等学校

目的

- ☐ 新コース新設にあたり、探究活動を取入れ、学ぶ内容だけでなく
学び方も変革したい
- ☐ ICT導入によって生じる教員の不安を払拭したい

アプローチ

- ☒ アウトプットとモバイルを重視しデバイスを選定、
教材のデータ化と学習支援アプリへの学習活動の蓄積
- ☒ 教員端末、共用端末などの先行導入・ビジョンの共有と教員研修により、
順調にICT利活用が定着

スモールスタートで、ツールとしてスムーズに教員に浸透

筑紫女学園高等学校では、教員向けの操作研修会やドコモの教育ICTアドバイザーによる意識改革研修会を重ね、教員の懸念を解消したうえで、2019年度から教員用と一部の学年用にタブレットを先行導入。ていねいなスモールスタートを切りました。予期せぬ新型コロナ対応で休校のまま迎えた新生生からは一人1台所持することとなりましたが、先生方はみな前向きにICTを活用した授業づくりを行い、学校再開後も生徒たちの日常のツールとして活用されています。

ICTの活用が学びを変革し生徒の力を育む

創立以来、自立した女性を育てるという強い思いに支えられてきた同校では、不確実な時代を生きる力として、ICT活用の推進に積極的です。特に2020年度に新設した「I類 医進コース」では、医・歯・薬・獣医学部をめざす生徒たちが日々探究的な学習に取り組んでいます。同コースの生徒たちは全員が新生生。休校で顔を合わせられないまま新学期がはじまりましたが、タブレットを活用してビデオ会議でグループ学習を行い遠隔で資料の共同編集を行うなど、新しい学びにすぐに取り組むことができました。

「確かに医学部などは高い学力が必要ですが、私たちが大事にしているのは、自分で学ぶ力を支える『志』です」と松尾圭子校長は話します。学校がただ長時間授業を行えばよいというのではなく、生徒が自ら疑問に思うテーマを掘り下げて論じ、科学的に検証する経験を重ねることこそが、ねばり強く学びに向かう力につながるという考えのもと、ICTが存分に活用されています。



松尾圭子校長



タブレットは軽くて持ち運びやすく、生徒はあっという間に文房具として使いこなしているといいます。「生徒たちの進化はすごいですね」と松尾校長。ITに強くなることが、将来多様な働き方の道を拓くことにも期待を寄せます。



学校法人 筑紫女学園
筑紫女学園高等学校

〒810-0023 福岡県福岡市中央区警固2丁目8-1
URL: <https://www.chikushi.ac.jp/hsc/h/>

筑紫女学園高等学校（福岡県福岡市）は、113年の歴史に支えられながら、新しい時代を生き抜く自立した女性の教育を行っています。ICTを活用し、独創性や批判的・分析的思考、コミュニケーションスキルを学ぶ、伝統と革新が融合した環境。女性ならではのライフステージにシナギに対応し、社会で力強く能力を発揮する資質を育みます。



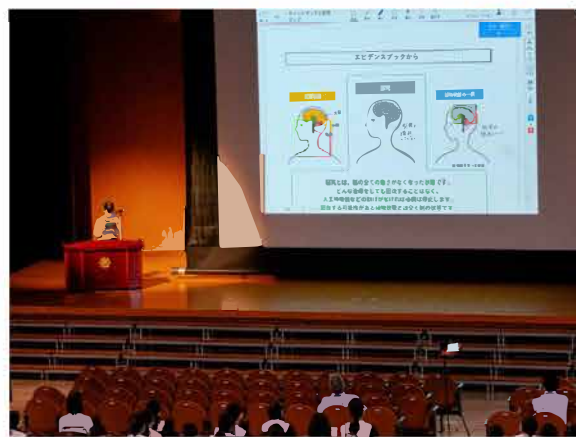
[取材協力] 筑紫女学園高等学校

論理的構成力と科学的検証力を育てる探究学習

自ら学ぶ力をタブレットが支える

「I類 医進コース」で取り組む探究学習には、1年かけて論文を仕上げる「医進探究」と、実験や調査データから科学的考察を行う「サイエンス探究」があります。「医進探究」では、休校期間中の遠隔グループ学習で行った新型コロナウイルス関連の調査をベースに、各自がマインドマップで関心を整理して、選んだキーワードを多角的に見つめて論題を設定しました。論拠のエビデンスを示すなど、論文を書く上で必須の手順を学びながら研究を続けています。

すべてのステップでタブレットを活用。I類医進プロジェクトリーダーの友重雄一郎教諭（数学科）は、生徒の進捗を共有データで把握し、必要なテンプレートデータはタブレット上に配布します。適宜サポートはしますが「指導するというのではなく、生徒たちが自分ですべて進めています。必要なのはきっかけと時間です」と生徒が自ら学ぶ力を実感しています。



ワイヤレス、ペーパーレスのスマートな発表スタイル

10月には中間発表として、論文のアウトラインの発表会が行われました。会場の講堂には、来年度以降「I類 医進コース」への進級を検討する学園内の中高生およそ150名が集まり、15名のコース生全員の発表を見守ります。

発表用のタブレットはワイヤレスでステージ上の大スクリーンに投影され、生徒は自分のタブレットでシナリオを確認しながら堂々とプレゼンテーションを行いました。タブレットの操作性を生かしてピンチアウトして拡大したり、強調したい箇所にマークしたりと慣れたものです。論題はさまざまですが「脳の老化と認知症の進行には、相関関係があるのか」「なぜアメリカでは『脳死=人の死』なのか」など、医療にかかわるものが多く見られました。



タブレットが学びと業務のスタイルを変える

日常の道具として使いこなす生徒たち

発表を終えた生徒に探究学習について話を聞いてみると、「与えられたテーマではなくて自分が興味を持ったことを調べられるのが楽しい」「疑問がどんどん出てきて自分で解決方法を考えていくのが面白い」という声。学びへ向かう『志』が育まれていることが伝わってきます。

タブレットを日常の学習に使いはじめたらすぐに慣れ、「修正が簡単で考えをまとめやすい」「電子黒板に意見が簡単に映せるのでクラスで共有したり意見交換をしたりできて楽しい」「ノートも教材もこのなかにあるのでとても便利」とその利点を実感しています。聴衆の生徒のなかには、発表を聞きながらタブレットでメモを取っている姿もありました。



ICTの力で質と効率がアップ

休校中に遠隔グループ学習を見守ったI類医進コース担任の市川寛教諭（物理科）は、「オンラインで探究活動を行えたことは生徒の自信になりました」と話します。教師がICT活用の利点を確信する機会にもなり、学校内の授業は変わり始めています。

物理では図で可視化する機会が多いため、スライドや動画を手軽に使えるタブレットは非常に便利です。板書もノートもタブレットに置き換え、「授業のスピードが格段に上がりました」と市川教諭。また、タブレット内蔵の加速度センサーの値を扱えるアプリを使い、エレベーターに乗った際のデータから高さを算出するという体験的な学習も行っています。

校務でも職員会議はペーパーレスになり、先生同士の細かな打ち合わせはグループチャットツールで進めるなど、質はそのままに効率アップが実現しました。ほかにも生徒会や部活動など、学校生活のあらゆるシーンで活用されはじめています。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）

受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを！

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/specia/education_ict/



※本チラシの内容は2020年10月取材時点のものです。